

## 仮称「市民会議作業部会（ワーキング）」開催報告

### 矢作川流域圏懇談会「市民企画会議（WG）」が設立される

#### 1. 実施概要

##### (1)実施概要

○実施日時：平成 23 年 5 月 20 日(金)  
18:30 ～ 20:30

○会 場：豊田市職員会館 2 階第 1 会議室

○参 加 者：30 名（事務局含む）

別添：「出席者名簿参照」

##### (2)内容

###### 【プログラム】

1. 開会
2. 議題
  - (1) 懇談会存立の意義の再確認と市民会議のあり方の検討
  - (2) 自立して自律的な市民会議の組織運営の検討
  - (3) 流域圏が抱える課題の抽出と整理の基本方針
  - (4) その他
3. 閉会



市民会議桜さくら座長挨拶



事務局担当の変更紹介



会議の様子

#### 2. 主な会議内容

仮称「市民会議作業部会（ワーキング）」では、主に以下の内容が話し合われました。

- 以下の確認を含めて、今後、呼びかけ文を基本に会議開催が決定。
- 今後の会議名称は、「市民企画会議（WG）」とする。
- 市民企画会議は、概ね月 1 回程度で定期的開催するものとし、市民会議役員（9 名のコアメンバー）を基本に誰でも参加できる会議（市民・関係団体・学識者・行政の全て一般市民として参加）にする。
- 運営については、当面は市民会議山部会の役員（稲垣山部会長、黒田山副部会長）とする。
- 今後、市民企画会議の結果については、ホームページにて情報発信（事務局）する。
- 議論する上では、懇談会の活動内容である流域一体化の取り組みと河川整備については、切り分けて議論する。
- まずは、参加者が矢作川流域全体（山・川・海）の現状や問題点を共有することを目的として、勉強会を活用した、フィールドワークを行っていく。予定としては、7/2 の海の勉強会、8 月末の山の勉強会、9 月末の川の勉強会として 1 泊 2 日の源流から河口までを巡るツアー（実費個人負担）を実施する。
- 流域圏が抱える課題の抽出と整理の基本方針は、今後の議論。
- 第 2 回市民企画会議は、7/2 の海の勉強会のフィールドワーク後で調整する。

### 3. 議事概要 (・ ご意見、提案 ▶ 回答)

#### (1) 開 会

市民会議 裕座長(矢作川「川会議」代表)

- ・ 本日は、矢作川流域懇談会市民会議のみなさんへと言う呼びかけに対して集まって頂いたと思う。
- ・ 今までに、市民会議2回、地域部会が2回、山と川の勉強会が2回開かれ、みなさんがどんな活動をしているのか、どんな問題点をもっているのかなど、いろいろなことが解ってきた。
- ・ この流域懇談会は、もう一つ上の目標と言うか、自分たちの活動は、それぞれ自分たちが一生懸命行うのと同時に、運命共同体として山、川、海を一つのものとして、めぐみのある川として、どのようにこれから接していったらいいのか、矢作川をより良いものにするために、何が出来るかという観点で懇談会を開きたいと思っていたし、山部会の方も、それをとても切実に考えてみなさんへの呼びかけを前回の市民会議で行い、みなさんでご了承いただいた。
- ・ 特に、山部会の方が、一番熱心に呼びかけをしたので、それに対してみなさんがどう思っているのかということで、開かせて頂きたい。

#### (2) 事務局担当の変更紹介 (4/1 転勤による変更)

国土交通省中部地方整備局豊橋河川事務所長 守安邦弘

矢作ダム管理所 建設専門官 岡村 修

#### (3) 議題

市民会議山部会長 稲垣氏及び山部会副部会長 黒田氏より会議の趣旨及び提案(別紙「呼び掛け文」参照)

##### 1) 懇談会存立の意義の再確認と市民会議のあり方の検討

###### 【稲垣氏からの説明】

- ・ 山部会では、もうちょっと形式だけにとらわれなくて、有機的な会合ができないだろうか、有志が集まって検討をしてきた。この「矢作川流域懇談会市民会議のみなさん」という呼びかけ文に基づいて黒田さんから提案をして頂く。

###### 【黒田氏からの説明】

- ・ 先日の市民会議の時に私の方から自主的に一度集まりませんかという呼びかけをして、それで良からうということだったので、改めて呼びかけの文章をつくった。山部会では、これまで、1ヶ月に1回ぐらいのペースで有志が集まっており、どうやったら、懇談会を身のあるものにできるだろう。我々の力でやり遂げることができるだろうかということを考え続けてきた。
- ・ 一方では、事務局の方から市民がこの懇談会の主人公と言われ続けながら、市民の側には、一向にそういう気配もなく、2回目の市民会議では、惨憺たる出席率になってしまった。そのため、止むに止まれぬ気持ちで、1回集まろうと呼びかけた。
- ・ 今回の震災では、人が自分の力で立ちあがろうということが甚だしく衰えていたこ

とから、自分たちが自分たちの暮らしを守っていく、作り上げていくことの必要性を痛感した。流域圏住民が、自分たちのことは自分たちですのだからということがなければ、この懇談会が成功するはずはないという思いからこの文章を書いた。

- ・ 私達は、矢作川のめぐみで生きてきたし、私達の子孫たちも生きていくためにどうしたらいいのかということ、みんなで考えようということが、この呼びかけの主旨。
- ・ この主旨に従って、有志では、大体1ヶ月に1回ぐらいのペースで集まっているので、みなさん方と一緒に、これを継続的に定期的に続けようということ、みなさん方に提案をしたい。

#### 【意見交換】

- ・ 住民が自立することは重要だと認識しているが、提案のワーキングは、今ある組織の中で運営するのか、新たに別の組織をつくるイメージか。回数だけが増えていく感じがする。(杉浦)
  - 事務局が決めた会議だけでは、議論が深まらないため、事前に打合せをして、具体的に内容を詰めていくような自主的な活動をしたい。会議自体は、規約のワーキングにあたる。(稲垣)
- ・ 事務局や先生方に何回も出してもらうのは難しいのではないかと。それより、市民会議の中のメンバーだけで議論した方がよいのではないかと。(杉浦)
  - 市民会議のメンバーだけでなく、関係する人たちと一緒にやってきたい。(稲垣)
- ・ 事務局や先生方もボランティアにくるわけではないので、回数を増やすのは心配。市民だけで行うのであれば、何回開催してもいいと思う。(杉浦)
  - 本来であれば、流域圏住民が自分で考え、解決をしなければならない問題を抱えてまごまごしている。それにもかかわらず流域圏住民でもないのに、我々が抱えている問題を考えてくれている学識経験者の人たちというのは、大事な仲間だと思うので、是非、力を貸してもらいたいと思う。(黒田)
- ・ 事務局としては、そのような形で会議を進めていくことを決断されているのか。(杉浦)
  - 流域圏懇談会の中ではいろいろな会議が行われているが、それと今回提案されている市民企画会議は、どう位置づけが違うのかということ、聞かれています。その話は、議題2で議論するので、その提案を聞いた上で、もう一度全体を見ながら議論をされたらどうか。(事務局)

## (2) 自立して自律的な市民会議の組織運営の検討

### (3) 流域圏が抱える課題の抽出と、整理の基本方針

【市民有志からの提案説明： 裕（さ）氏】(別紙「市民有志からの提案」参照)

- ・ 最初の3項目は、目的や思いを整理している。また、今までの勉強会は、座学として実施したが、みんなで共通の目的意識を持つためには、フィールドに出て実際に矢作川の問題点を共有したらどうか。会議名称は、市民企画会議(WG)として、定期的に継続的に矢作川流域圏の未来を考えていくのが望ましいのではないかと

っている。それに対しての提案があれば是非お願いしたい。

【洲崎氏より補足説明】

- ・ 市民有志の提案として、このままでは、流域圏懇談会が空中分解すると思うので、参加して意義のある面白い会議にしたい。
- ・ 何が今一番必要なのか考えると、もうちょっと矢作川流域全体の問題をみんなで共有することが必要と考え、山から海まで矢作川全体のことを知るための源流から海まで下る一泊二日のツアーの提案をしたい。
- ・ 自分たちが矢作川の問題解決のために何ができるかを提案できるようにしたい。
- ・ 会議の名称については、市民企画会議（ワーキング）として、月1回程度開催し、今後の市民会議や勉強会の仕方や開催方法などを話し合っていきたい
- ・ これまでの話し合いの中では、1泊2日のツアー、7月2日の一色干潟の見学会（海の勉強会）、8月27日の山の勉強会などの提案がでている。
- ・ みんなで一緒に現地を見て、学んで、考える意見交換をして流域圏の問題を自ら提案していける流域圏懇談会にしたい。

【意見交換：企画会議・勉強会について】

- ・ 矢作川では、河川整備計画が策定されているので、まずは、河川整備計画とは何かを市民が勉強することが前提条件ではないか。是非事務局からの説明をお願いしたい。（杉浦）
- ・ 勉強会を行う場合、治水上の問題や鮎の遡上、風景の問題もあり、それぞれの問題について考えてみたら、相反することが出てくると思う。これが解決できない問題であり、このような問題を絞り込んで見学をしないとだだの漠然とした見学会になってしまう。（裕（伸））
- ・ ポイントは、治水をやっている人は治水じゃない人をひきずりこまないといけなし、治水じゃない人は治水をやっている人にひきずりこまれなければならないということをお互いに了解しないといけない。それができて初めて問題点を話し合うことが出来ると思う。現地を見る際には、治水から見るとこんなこと、環境から見るとこんなことだと説明できる人がいないと、問題点が顕在化しないと思う。（鷲見）
- ・ 自分に関わる場所は詳しいが他の地域のことは分からないと思う。その話題を共有しようということが一番大きなねらい。（稲垣）
- ・ いろんな話をお互い聞かずに、自分のところだけでやってもだめだということでこの会議に参加している。山や海のこと全部知って、話し合いを進めていくのはいいと思う。（高橋）
- ・ これまで短時間で難しい議論をしてきたが、実は市民同士がお互い話し合いができていないという感じなので、市民が自ら立ち上がらないとダメだと思う。そのため、組織形態として、今の市民が中心となって、来たい人はだれでも来てほしいという間口を拡げた会議にしていくのがよい。（事務局）
- ・ 一ヶ月に1回程度開催して、これまで、事務局が行ってきた課題の抽出や重みづけ、市民自らの企画提案を行い、いいものをつくっていかうということ。
- ・ 流域圏懇談会の活動内容として、流域圏一体化の取り組みと河川整備の2つがある

が、それらをきちんと分けて今後は進めていこうという要望は受けている。

**【意見交換：課題の抽出・整理の基本方針について】**

- ・ 矢作川の河川整備計画を前提条件に考えないといけないと思う。今回課題の抽出をして市民会議からの提案することで、河川整備計画を変えることになるのか。この会議の運営と河川整備計画を並列に考えるのはまずいと思う。(杉浦)
  - 河川整備計画については、まず説明して理解して頂いた上で進めていくが、整備を進めていく中で、いろいろな意見は聞いていきたいと思う。(事務局)
- ・ 河川整備計画を変えることもありうるのか。(杉浦)
  - 変えない訳ではないと理解しているが、今後議論していきたい。ただし、流域一体化の議論と河川整備の話については、きちんと分けて議論していきたい。その中には、課題の抽出や整理の方向性も市民自ら議論していこうといことも含まれている。(事務局)
- ・ 課題の抽出の前提として、これからの市民会議のテーマを決めて議論をしていかないといけないが、テーマをどう決めるかという課題。また、このテーマに対して、議論するための資料、河川事務所で持っている資料は出してもらえるか。(杉浦)
  - 基本的にあるものは提出するし、説明もしていく。(事務局)
- ・ 地域部会を開催して、かなり危機感を覚えている。地域部会では、行政が大半で河川整備計画を知らない人が好き勝手に話した中で、そこから課題の見える化、あるいは課題の抽出・整理、解決方策を探ることが課せられているが非常に困難であると感じている。課題の抽出ができたとしても、誰かが流域圏懇談会を一つの方向性に決めないと議論が収束しないと思う。(蔵治)
- ・ 山部会では、治水、利水、環境、河川整備計画という河川の人と森林、農山村、林業という人の間をいかにつなぐかということが必要であり、そのつなぎ方を決めるのは流域住民主導で行うべきだと思う。(蔵治)
- ・ 矢作川流域圏懇談会の活動内容である、河川整備の話と流域一体化の話は一緒に議論せず、それぞれ行うものとし、流域一体化の議論の中では、山、川、海の検討体制をしっかりと作ることからはじめ、川と山、海と山をどうやってつなげられるかを考えていきたい。(蔵治)

**【洲崎氏より追加提案】**

- ・ この市民企画会議は、山部会有志が言い出してくれたので、当面は山部会の稲垣さん、黒田さんを中心に、市民会議のコアメンバーみなさんで当面会議の運営していく形にしたい。

**【意見交換：追加提案について】**

- ・ 次回からは、進行を山部会の稲垣さん黒田さんをお願いしたいと思うがどうか。(碓(さ))

(拍手で了承)

**【意見交換：海の勉強会について】**

- ・ 7月2日に予定している「海の勉強会」では、矢作川河口、矢作古川河口の干潟の見学を考えている。お魚広場やダムに堆砂した砂を使った干潟の見学や漁協の方か

らの話を聞く場も設けたい。(高橋)

- ・勉強会の開催にあたっては、事前に情報を出してもらおうとさらに勉強になる。また、ここを見たいとか、ここだけは見てほしいなどを情報交換ができればいいと思う。そのような提案は何かあるか。(裕(さ))
- ・処理場ができたことにより、矢作の水が減少していることやアユの遡上について、海の人がどのように考えているのか知りたい。(裕(伸))
- ・土砂の話については、海の人も問題意識を持っていると思う。海から山を見ると問題意識があると思うので、問題点をいっぱい掘り起こせる見学会にしたらどうか。(青木)
- ・アサリの稚貝をまいて出荷するまでどのようにしているか、ほとんど知られていないが、システム的に行っているのでもそういったものも見学したらどうか。(杉浦)
- ・矢作川の干潟の浄化能力を処理場の能力に換算するとどれくらいとか、鮎の生息しているところとないところでは底質がちがうとかそんな話をうまく出してほしいと思う。(井上)
- ・川とか陸とかの間が、どう見えるかあるいは、どうなっているのだということをみんなが分かるように翻訳的に誰かが説明してもらえるといい。(鷲見)
- ・せっかく現地に行くので、山、川、海部会、お一人だけではなく何人でも出ていただいて、沢山の目で見ること、問題点がよりたくさんでと思うので、ぜひたくさんの方にご参加していただきたい。(裕(さ))
- ・海の勉強会の予定としては、基本は昼前から集合して、昼を中心に干潟を見て、ということのイメージでよろしいか。それと第2回の市民企画会議もできれば一緒に行ったらどうか。(事務局)
- ・次回市民会議は、3時とか4時ぐらいから行えたら一番いいと思う。出席した人がそのまま出られるので。会場については、海部会の方が調整して頂いて、できればその日に企画会議もするというのでよいか。(裕(さ))

#### 【意見交換：山の勉強会について】

- ・次回の企画会議には8月の山の勉強会のことを決めないといけないのか。(黒田)
  - そうしたい。(裕(さ))
- ・日時と場所については、1回仕切り直した方がいいので、相談させてもらいたい。企画内容については、山部会だけで考えると山と森の立場だけの発想で見せようとするので、川と海からみるとこの辺の森がどうかというコメントがほしい。(蔵治)

#### 【意見交換：その他】

- ・山部会では、メーリングリストを日常的に活用している。情報が活発に流れていると興味を持てるので、活発に使ってほしい。(黒田)
- ・海の話では、ダムの砂を使って干潟を造成していることが、興味ぶかい。(稲垣)
  - 愛知県の水産試験場が、矢作川の砂と現地の砂と中山水道の砂など4種類を比べて実験しており、その中でも矢作川の砂はきわめて優秀である。(井上)
  - 三河湾の干潟が減少してきた中で、人工的な造成を進めてきているが、一番ネックになるのは造成材、つまり砂がないということ。そのため、リサイクル材

を含めたいろいろな砂で、どの砂にアサリの幼生がたくさんつくかなどの方法により調べているが、矢作ダムに堆砂する砂は良い結果が出ており、生き物がたくさんいる干潟を復活させようとしている。(宮川)

- ・ 川会議で、矢作川の昔の姿を80代くらいの人に話してもらったことがあるが、非常によかった。河口の環境は大きく変わっている。干潟も今と昔と全然違っている。

(山本)

- 川会議の中で、矢作川をもっと知ろうということで、昔の矢作川はどんな川だったのかを80~90歳くらいの方からお伺いした。その際、矢作川の河口の環境が大きく変わっており、昔の河口はすばらしかったとの話もあったので、そのような話だけでも良い勉強になるし、エネルギーになるので、そういう方もいれば、お聞かせ願いたい。(裕(さ))

- ・ 活動が忙しい中、積極的な発言ができない状況である。なかなか会議にも参加できないため、今後の立ち位置が不安。(光岡)

- ・ 流域圏の一体化としては、今回提案されている形がいいのだろうか。(光岡)

- 流域圏の一体化が望ましいことは、多くの人が総論は賛成するが、各論になると利害や立場、目的の違いに応じて違う方向を向いた話になってしまう。それを乗り越える方法としては、1つは国が責任を持って流域を一体化することだが、現実的ではない。そうすると、流域住民が自ら立ち上がるしかないと思う。

(蔵治)

- そのため、まずは出発点を共有することが大事。出発点が共有されないと議論がかみ合わず、立場の違いに踏み込んでいくことができないので、その第1歩として、本日を位置づけたい。(蔵治)

- ・ 会議に全員が参加するのは無理なので、議事概要を作成して、参加していない人とも情報を共有できるようにしてもらいたい。(洲崎)

- できればHPのほうに掲載したいと考えている。(事務局)

- ・ 話を聞くことを目的に参加していることから、会議での指名はしないでほしい。(原田)

#### 4) その他

- ・ 矢作川流域圏懇談会への参加募集パンフレットを作成したので、必要な方は事務局まで連絡してほしい。(事務局)

- ・ 矢作川「森の健康診断」(6/4開催)、旭木の駅プロジェクト報告会(6/6開催)を開催するので興味のある方は参加をお願いしたい。(稲垣)

- ・ 今の時期は、矢作川(明治頭首工付近)でアユの遡上を見ることができるので、よかったら見てほしい。(新見)

- ・ 今後、どんどん情報を流していった情報の共有化というのを是非みなさんと一緒にはかりたいと思うのでよろしく願いたい。(裕(さ))

#### (4) 閉会

以上

## (仮称) 矢作川流域圏懇談会 市民会議作業部会 (ワーキング)

日時 平成23年5月20日(金) 18:30～21:00

場所 豊田市職員会館 2階 第1会議室

- 議題(案)
- (1) 懇談会存立の意義の再確認と、市民会議のありかたの検討
  - (2) 自立して自律的な市民会議の組織運営の検討
  - (3) 流域圏が抱える課題の抽出と、整理の基本方針
  - (4) その他

## ★ 市民会議有志からの提案

- ・ 自分たちが、矢作川の恵みに生きる、生かされる、矢作川流域圏の住民であることを、深く自覚し、いつも強く意識し続けよう。
- ・ 恵み豊かな矢作川流域圏の未来に想いを馳せ、わたしたちが今抱えている課題を探り、みんなで共有し、解決への道を歩もう。

↓

学識経験者・矢作川研究所員の同行助力を得て、矢作川の源流から河口に至る1泊2日のフィールド勉強会を実施しよう！

- ・ 矢作川の恵みの深さや、わたしたちが今抱えている課題を、感じ、探るための勉強会や、課題解決の道を探るために、さまざまな実践の現場の視察などの勉強会(フィールド、座学)を、重ねて実施し、矢作川の恩恵の大きさを実感しながら、今ある課題についてより深く知り、解決乗道を探ろう。
- ・ 矢作川流域圏が抱える問題点を、住民自らの手で抽出しよう。
- ・ 誰でも参加できる市民作業部会(ワーキング)(仮)を定期的に、継続開催(月1回程度)して、矢作川流域圏の未来づくりを推進しよう。
- ・ 会議の名称を「矢作川流域圏懇談会 市民企画会議(WG)」としよう。
- ・ 矢作川流域圏住民が主役の「矢作川流域圏懇談会」を作ろう。



## 矢作川流域圏懇談会 市民会議のみなさん

去る3月11日の東日本大震災の衝撃は、私たち矢作川流域圏住民にとって、決して他人事ではないと、忘れられない日になりました。

それだけに、源流の山々から、都市や平野部を貫き、三河湾に注いで、海を潤す矢作川の恵みに生きる、私たち100万流域圏住民の未来の希望につながる、この懇談会のはたす役割の大きさが、さらにいっそう増すことにもなりました。

先日の第2回市民会議の席上、山部会からの報告の中で、私たち流域圏住民が、懇談会の主体としての自覚を高め、自立して、自律的に協働しながら、住民自治力を存分に発揮するために、市民会議の有志が、自発的に集うことを、山部会からみなさんに呼びかけ、多数のご賛同をいただきました。

3月11日を経て、ますますその意味と重要性を増した今、矢作川の恵みに生きる私たちが、ひとり残らず、矢作川流域圏は、源流の山から海までがひとつの運命共同体であり、山の民と、川辺の民と、海辺の民とが、心をひとつに結び、力を合わせることなしに、私たちの未来も、子どもたちの希望もないことを誓い合い、市民会議を新たな地平へ導くよう協働するために、仮称ですが、市民会議作業部会(ワーキング)準備会を、自主的に開催することを、あらためてみなさんに呼びかけます。

この会合の意図するところをご理解いただき、さらに、私たちの市民会議を、真に矢作川流域圏懇談会の主体とするために、お忙しいとは思いますが、万障お繰り合わせの上、お誘いあわせて、ぜひともご参集くださいますよう、心からお誘いします。

海と川と山の市民が、一堂に会し、膝を交えて話し合う、はじめての機会でもあります。集まりましょう。話しましょう。前進しましょう。

当日は、懇談会の学識経験者のみなさんにも、このご案内を差し上げて、参集していただき、力と経験と知識の不足している私たちに、ご助力いただけるよう、お願いするつもりでいます。

2011年5月吉日

矢作川流域圏懇談会 市民会議 座長	碓 さくら
副座長	稲垣 久義
副座長	井上 祥一郎

### 記

会合の名称 (仮称)矢作川流域圏懇談会 市民会議作業部会(ワーキング)

日時 2011年5月20日 金曜日 18:30~21:00(予定)

場所 豊田市職員会館 2階 第1会議室

- 議題(案)
- (1) 懇談会存立の意義の再確認と、市民会議のありかたの検討
  - (2) 自立して自律的な市民会議の組織運営の検討
  - (3) 流域圏が抱える課題の抽出と、整理の基本方針
  - (4) その他

以上

矢作川流域圏懇談会 第1回市民企画会議(WG)出席者名簿

	所属	役職	氏名	所属部会	出欠
市民団体	BIO de BIO	代表理事	黒田 武儀	山	○
	伊勢・三河湾流域ネットワーク	協同代表世話人	井上 祥一郎	山・川・海	○
	奥矢作森林塾	理事長	大島 光利	山・川	○
	豊田市自然愛護協会	会長	光岡 金光	川	○
	西三河野鳥の会	事務局	高橋 伸夫	山・川・海	○
	家下川を美しくする会	事務局	松村 英治	川	○
		事務局	原田 範次		○
	矢作川「川会議」	代表	碓 さくら	山・川	○
	矢作川学校	事務局(矢作川研究所事務局長)	内田 良平	川	○
	矢作川環境技術研究会	事務局	野田 賢司	川	○
	矢作川森林塾	理事長	碓 伸夫	川	○
	矢作川水系森林ボランティア協議会	副代表	稲垣 久義	山・川	○
	矢作川治水史研究会	代表幹事	小澤 祐治	川	○
		幹事	杉浦 宏		○
矢作川天然アユ調査会	会長(矢作川研究所副所長)	宮田 昌和	川・海	○	
	副会長	新見 克也		○	
学識経験者	東京大学愛知演習林	准教授	蔵治 光一郎	山	○
	大同大学工学部都市環境デザイン学科	准教授	鷺見 哲也	川	○
	豊橋技術科学大学建設工学系	教授	青木 伸一	海	○
	豊田市矢作川研究所	主任研究員	洲崎 燈子	山	○
		主任研究員	山本 敏哉	川	○
愛知県水産試験場内水面漁業研究所	所長	宮川 宗記	川	○	
事務局	国土交通省 中部地方整備局 矢作ダム管理所	建設専門官	岡村 修		○
		係長	鈴木 良		○
		技官	山下 裕也		○
	国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所	事務所長	守安 邦弘		○
		事業対策官	溝口 敏明		○
		調査課専門職	宇野 利幸		○
事務局補助	建設技術研究所	次長	牛来 司		○
		主幹	土屋 信夫		○